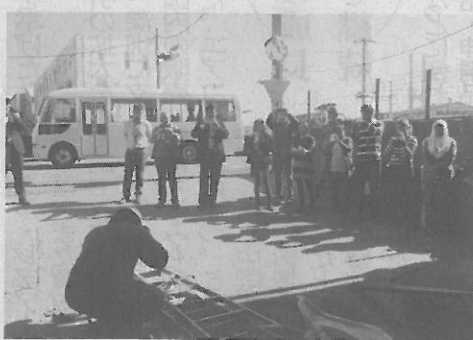


ダイハチ 研修生がヤード見学

JICA、7回目実施

金属スクラップ問屋のダイハチ(本社〓神戸市東灘区、武本京子社長)は4日、国際協力機構(JICA)関西国際センターが主催する廃棄物管理能力の向上プロジェクトで来日したASEAN諸国と南米地域など7カ国12人の研修生を対象に、ヤード見学会を開催した。同社での開催は7回目。



手解体を見学する研修生

その後、選別ヤードに移動し、磁石による検収方法やマグネット付き天井クレーンによる搬送、使用済みアルミ缶(UBC)のプレス加工を見学。手解体エリアでは、アルミと鉄、ステンレスなどさまざまな金属で構成された製品を、ガス切断機でそれぞれ分け、銅線を剥線する作業を見学した。

同プロジェクトは、JICAがアジア

各国の廃棄物に関連する自治体職員への廃棄物管理や3R推進など、環境啓発に向けた行政能力の向上を目的に実施している。

JICA研修生受け入れ

ダイハチ、6回目実施

金属スクラップ問屋のダイハチ(本社〓神戸市東灘区、武本京子社長)は23日、国際協力機構(JICA)が主催する廃棄物管理改善支援プロジェクト(J-PRISM)で来日した大洋州7カ国9人の研修生を対象に、ヤード見学会を開催した。同社での開催は6回目。

見学会には、フィジーやキリバス、マージナル、パプアニューギニア、サモア、ソロモン、モルディブの政府関係者や自治体関係者が参加し、冒頭で同社の田中初夫専務が事業内容やリサイクルの流通経路などを解説した。その後、選別ヤードで使用済みアルミ缶(UBC)のプレス工程やマグネット付きクレーンによるスクラップの運搬作業を見学。手解体エリアでは、砲金バルブをレンチで解体し金属別に選別する様子や、ガス切断機でアルミ脚立からステン



スクラップの説明を受ける研修生

レス部品を除去する作業を見学した。

同プロジェクトは、JICAが大洋州11カ国を対象に2011年度から実施している支援で、各国の廃棄物関係の政府や自治体職員の行政能力向上を目的に開催している。